

第17回 龍頭が滝案内

暦（こよみ）と、松笠の暮らし（その3 「二十四節気」。）

太陽を観測すると、太陽がみずがめ座、うお座、おひつじ座などの星座の間を、1年をかけて動いているように見えます。この太陽の通り道は、「黄道」と呼ばれています。

太陽は1年で元の位置に戻ることから、基準点を決めて、そこから黄道に15°ごとに点をつけていくと、24個の点ができます(360°÷15°=24)。この24個の点を太陽が通過する日には、それぞれ名称が付けられていて、これらはまとめて、「二十四節気」と呼ばれています。それぞれの名称や令和6年の該当日などを、表にまとめてみましたが、奇数番目（立春、啓蟄、清明、立夏など）と偶数番目（雨水、春分、穀雨、小満など）に分けることができます。

前者のグループは「節気」あるいは「節」といい、暦の本では、例えば「立春」は「正月節」のように、○月節と表記されています。後者は「中気」あるいは「中」といい、例えば「夏至」は「五月中」のように、○月中と表記されます。

この「中気」ですが、旧暦の月を決めるのに使用されます。例えば、新月から新月の間（1朔望月）に「中気」である「夏至」（五月中です。）が入ると、その月は旧暦の五月となります。時には1朔望月の間に「中気」が入らないことがあります、「中気」の無い月は、「閏月」として、通常の12か月にまるまる1か月を挿入し、季節を調整するようになっています。（なお、「二十四節気」は、その瞬間だけではなく、そこから始まる期間を指すこともあります。例えば、2月4日から2月18日の期間を「立春」と呼ぶこともあります。）

気候に影響を及ぼす太陽の位置によって「二十四節気」は定められているのですから、

季節	二十四節気名						旧暦月
	節気	太陽黄経	令和6年該当日	中気	太陽黄経	令和6年該当日	
春	立春	315	2月4日	雨水	330	2月19日	旧暦正月
	啓蟄	345	3月5日	春分	0	3月20日	旧暦2月
	清明	15	4月4日	穀雨	30	4月19日	旧暦3月
夏	立夏	45	5月5日	小満	60	5月20日	旧暦4月
	芒種	75	6月5日	夏至	90	6月21日	旧暦5月
	小暑	105	7月6日	大暑	120	7月22日	旧暦6月
秋	立秋	135	8月7日	処暑	150	8月22日	旧暦7月
	白露	165	9月7日	秋分	180	9月22日	旧暦8月
	寒露	195	10月8日	霜降	210	10月23日	旧暦9月
冬	立冬	225	11月7日	小雪	240	11月22日	旧暦10月
	大雪	255	12月7日	冬至	270	12月21日	旧暦11月
	小寒	285	1月6日	大寒	300	1月20日	旧暦12月

・太陽黄経とは、春分の太陽の位置を基準にして測定した、黄道上の太陽の位置との角度のこと。

それは季節の変化を正しく知らせてくれるものであり、農業にはとても有益な暦です。農業や暮らしの中で、松笠でも「二十四節気」が使われていたことを思わせる資料がありますが、その紹介の前に、「雑節」と「節句」についても触れたいと思います。（次回に続く。）